

6 果樹園の除草剤

果樹園における除草剤使用上の注意事項

A カンキツ園

(1) 除草剤使用上の一般的注意事項

カンキツ園の除草剤には、茎葉処理剤と土壌処理剤が利用されている。茎葉処理剤は、効果の発現が早く抑草期間が短いという特徴を持つが、カンキツの葉や果実に対する接触害があるため、散布時には薬液の飛散に注意が必要である。土壌処理剤は茎葉処理剤に比べて、効果の発現が遅く抑草期間が長いという特徴がある。水はけの良い土壌への土壌処理剤の散布は、薬剤が流出し周囲に薬害を引き起こす恐れがあるため注意する。

傾斜地カンキツ園においては、6月～7月の梅雨時期には土壌流出を防ぐため、雑草がある程度繁茂していることが望ましい。春に抑草期間の短い茎葉処理剤を利用して、梅雨明け後に抑草期間の長い茎葉処理剤を利用するのが良い。

土壌流出の恐れのない平坦地カンキツ園では、土壌処理剤と茎葉処理剤を組み合わせることで、抑草期間の延長を図ることもできる。

薬剤の種類によって草種による除草効果が異なるため、同一薬剤の連年使用を避け、異なるタイプのを組み合わせるよう心掛けたい（具体的な薬剤は次頁参照）。

(2) 除草剤の保管、管理について

劇物に指定されているジクワット液剤については、事故防止上、取扱い及び保管、管理には、十分注意が必要である。

B 落葉果樹園

除草剤使用上の一般的注意事項

落葉果樹では土壌からの吸収害を避けるため、主として茎葉処理剤を用いる。ただし、作物の茎葉に薬液が付着すると薬害がでるので、散布に当たっては飛散防止に努める。

茎葉処理剤は土壌中では不活性化するので、根からの吸収による薬害はないが、雑草種子の発芽に対する抑制効果はない。なお、薬剤によって草種に対する除草効果が異なるため、効果の出にくい多年草は残りやすく、かえって多くなる傾向がある。また同一薬剤の連年使用は草種を片寄らせる可能性があるため注意が必要である。

（具体的な薬剤は次頁参照）